

三重県内のグラム染色標準化に関するアンケート調査結果

◎永田 恵一¹⁾、海住 博之²⁾、森川 智仁³⁾、高橋 未帆⁴⁾、松島 志保⁵⁾、山田 里子⁶⁾、木枝 秀人⁷⁾、別所 裕二⁸⁾
三重大学医学部附属病院、三重県臨床検査精度管理協議会標準化実務委員会 標準化実務委員¹⁾、三重県立総合医療センター²⁾、
鈴鹿中央総合病院³⁾、社会福祉法人 恩賜財団 済生会 松阪総合病院⁴⁾、社会医療法人畿内会 岡波総合病院⁵⁾、市立伊勢総合病院⁶⁾、
独立行政法人地域医療機能推進機構 四日市羽津医療センター⁷⁾、JA 三重厚生連 三重北医療センター 菰野厚生病院⁸⁾

【背景】三重県臨床検査精度管理協議会標準化委員会事業として県内の標準化を推進するため、三重県臨床検査技師会臨床微生物部門が中心となってグラム染色の現状に関するアンケート調査を行った。【目的】県内のグラム染色の現状を調査すること。【方法】三重県臨床検査技師会員施設（内 26 施設がグラム染色の精度管理調査に参加）を対象にアンケートを実施した。調査項目は施設概要、グラム染色方法、報告項目及び方法、手順書の有無、内部精度管理の実施の有無とした。【結果】23 施設から回答を得られ、内 20 施設が自施設で培養検査を実施していた。グラム染色方法は B&M 法が 19 施設、フェイバー法が 4 施設、報告項目は GPC、GPR、GNC、GNR、真菌（以下基本的な項目）は全ての施設が項目に入っていたものの、その他の項目（白血球、上皮細胞、貪食像、推定菌、Miller & Jones 分類、Geckler 分類、Nugent score など）は報告していない施設があった。また、日常検査で基本的な項目に加えて追加のコメント（ブドウ状、レンサ状、腸内細菌目、非発酵菌群など）をしている施設は 13 施設、検体を血液培養のみに限定

すると 21 施設中 17 施設だった。菌量表記の基準に Clinical Microbiology Procedures Handbook 第 1 版または第 2 版以降を使用している施設は 7 施設のみで、その他の施設は独自基準や個人の裁量又は菌量を報告していない施設もあった。手順書の有無に関してはあると答えた施設が 21 施設あったが、項目が各施設で異なっていた。内部精度管理に関しては実施している施設が 12 施設に留まった。【考察】菌量表記の基準に独自基準を使用、個人の裁量に加え、菌量の報告をしていない施設が 16 施設あったことから、同じ菌量表記でも実際の菌量に差がある可能性があり、菌量表記の基準を標準化することが必要と考える。また、手順書はほとんどの施設で作成されているものの、記載されている項目に差があるため、標準化委員会がマニュアルを作成し、手順書に必要な項目を示すことで一層、標準化が推進できると考える。【結論】グラム染色の報告方法や手順書の内容、内部精度管理の実施の有無に差が認められた。
三重大学医学部附属病院検査部 永田恵一（059-232-1111）